

続・眠れる者たちに「復讐をもって」現れてくるもの

Greatchain
2020/09/19

「復讐をもって」(with a vengeance)とは「復讐の意図をもって」という意味ではない。辞書で調べてもらえばわかるように、「予想しなかった強い意志をもって」という意味で使われる常套句である。今、不思議な現象が世界的に起こっている。どうしても意図的に、我々に気づかせ、悟らせようとしている何ものかが存在する、としか考えられないことが、特にアメリカで起こっている。そもそも、なぜこれだけ極端に、トランプ派と反トランプ派が分かれて争っているのか？

それも、反対派は「トランプが当選したら大変なことになる、絶対に許すな」と、トランプ殺害の意図さえ隠そうとせず、そのためなら手段を選ばない勢いである。一方、支持派は「トランプしかありえないと、トランプでなければ何も解決しない」と言っている。こんなことが、米選挙の歴史で起こったことはなかった。そこに何が「賭けられて」いるのか？ それはやはり魂であろう。悪霊的なものが、集団的に、無意識のレベルで働いているとしか考えられない。(バチカンのペドフィリア問題と同じである。) ジョージ・ソロスのような金持ちが、民衆をカネで動かしているのは間違いないが、カネは動機の一部でしかないと思う。

そして、この無意識のレベルでは、わが国でも全く同じことが起こっている。我が国にも、民主党がトランプに対して言うように、絶対に許せないものがある。わが国を密かに支配する者にとって、民衆が目覚ますことは、絶対に許せないことである。それは、彼らの存在の基盤を脅かすものだからである。「インテリジェント・デザイン」のような、神の存在を科学的に証明するような運動が、日本で起ってはならない。

先日テレビで、遠藤周作原作のアメリカ映画『沈黙』を見た。一つ忘れられない場面がある。主人公の外国人神父が、ついに「転んで」(人々の拷問に耐えられず棄教して)苦しんでいるとき、尾形イッセー扮する切支丹弾圧代表者の「お武家様」が、「お前が負けたのは、信仰心の弱さに負けたのではない。日本文化という泥沼に呑み込まれたのだよ」と言うところがある(間違っていなければ)。

これは今でも変わらないと思う。「日本文化という泥沼」は、トランプが予定している、自国政府の「泥沼掃除」の泥沼のようなものではない。しかし現在の日本には、決して「お上」に異を唱えてはならない、禁令の泥沼がある。それは、より高い現実のレベルを、公共機関が口にするのであり、「ID理論」のようなものに触れることである。それは切支丹禁制に相当する。イルミナティとか New World Oder とか言われ、**神に復讐し神を滅ぼす**ことによって生きる者たちにとっては、日本人が、より高い存在に目覚めることがあつてはならず、このまま、意識の低い無神論者で、いてくれなければならない。

我々は、倫理的にあまり「けじめ」をつけないように、アメリカから「リベラル＝無神論」教育を受けてきた。このけじめをつけない泥沼も、この同じ者たちのアジェンダである。それはいわば、「反武士道教育」、骨抜き教育とも言える。我々は性道徳というものを、ほぼ諦めている。まあ、そこまでは認めるとしよう。しかし、これは、世界の趨勢から考えて、ペドフィリアに非常に発展しやすいものである。そうなったとき、我々は、人間として最も許されない犯罪者に転落する。そして彼らは喜ぶ。そこから際限のない泥沼が始まる。日本文化はこれを、人間の進歩の証として寿ぐのだろうか？ バチカンも、ペドフィリアに極端に寛大であるだけでない。いわゆる「合意年齢」を極端に下げることによって、これを正当化しようとする、不埒なカトリック僧などがいくらでもいる。

ペドフィリアを刺激するような媒体は、限りなく存在するだろう。Netflix というアメリカの映画企業が「キューティーズ」という、11歳の少女たちを、危険な遊びに使う映画を、最近発表した。しかし、これには大勢の人々が激怒し、「大炎上」したようだ。このように、良心をもつ健全な人々が、良心を全く欠いた「リベラル」たちと激突するということは、アメリカに希望がある証拠である。しかし「泥沼」天国のわが国が、これを無批判に受け入れることがないことを祈りたい。

この「健全」という言葉について、言うべきことがある。これは「健康」とは微妙に異なる。そしてこれは、国連機関である WHO（世界健康機関）の「健康の定義」に関わってくる。WHO では、「健康」を、肉体的に病気がないだけでなく、精神も（メンタル面でも）健康であることだと言っている。しかし、（動物でなく）人間の健康を論ずるには「スピリチュアル」な面が、同時に問われなくてはならない。これは「神聖なもの、人間を超えたもの」に十分に感応する能力と言ってもよい。数年前、中東で戦争が行われていたとき、ある「イスラム国」兵士が、死んだ敵兵に向かって小便をかける場面が写された。これはやはり、人間のもつ霊的な側面が著しく損なわれた、心を病む者と言ってよいだろう。

これは、たまたま、そういうひどい人間がいたという話ではないであろう。現在のように、極左リベラル、ニヒリスト、アナキストが、大量に現れているところでは、いつでも、どこでも、それは起こるであろう。

WHO が「健康」のスピリチュアルなレベルを無視するということは、彼ら自身が、それを持たない欠陥人間だということを意味する。私自身はそのことを、ある小さな新聞に書いたことがある。しかし、国連機関の「健康の定義」について、もし、それを指摘する者がほとんどないのだとしたら、欠陥は、世界全体に及んでいることになる。つい先日、国連代表者が、アンティファや BLM の抗議運動（すなわち暴動）を支持するという声明を発表した。

——以上